

温州みかんにおける非破壊選果機の導入経過と波及効果

光センサーを用いた非破壊選果機の導入により、品質保証による高単価の実現等の有利販売や、等階級の客観化が図られる。また、選果データは生産指導への活用され、産地全体のレベルアップを推進していく方策として有効である。

農業研究センター企画経営情報部経営研究室（担当者：篠原公人）
果樹研究所常緑果樹部（担当者：北園邦弥）

研究のねらい

近年、温州みかん産地の選果場において、光センサー（非破壊内部品質選別機）の導入が進んでいる。

このため、光センサー導入の効果及び導入前後の動向を把握し、高品質果実生産の指針を作成するための資料とする。

研究の成果

- 1 光センサーによる非破壊選果で果実一個毎に糖度等の判定を行いそのデータを示すことにより、市場関係者及び消費者に対する品質保証が可能となる。このことにより、販売戦略上で有利な商品の差別化ができる。
- 2 光センサーの選果データを農家の生産上の資料としてフィードバックすることが可能となり、高品質果実生産につなぐことができる。
- 3 光センサーによる全量検査は、品質保証について市場から高い信頼性、評価を得ることが可能となる。光センサーによる部分検査では、必ずしも十分な信頼性や評価が得られず、また、個人及び園地の全体データが把握できないため生産指導への十分な活用が図りづらい。
- 4 かんきつについては、糖度ばかりでなく酸度の品質保証が求められるため、糖酸センサーによる効率的な選果が有効である。

以上のことから、光センサーによる非破壊選果機の導入・施設の改善による品質を保証したブランド化による有利販売や、等階級の客観化が図られる。また、選果データは生産指導において効果的な活用ができるため、産地全体のレベルアップを推進していく方策として有効である。

普及上の留意点

- 1 糖度の低い果実は今までより低い評価となる場合があるため、品質保証を前提とした内容重視の生産技術および販売対策等が求められる。
- 2 他品目への光センサー導入を検討する場合、センサー設置には多額の設備費が必要なため、対象品目の消費動向や産地の状況、償還計画等を基にした生産計画について十分な検討が必要である。

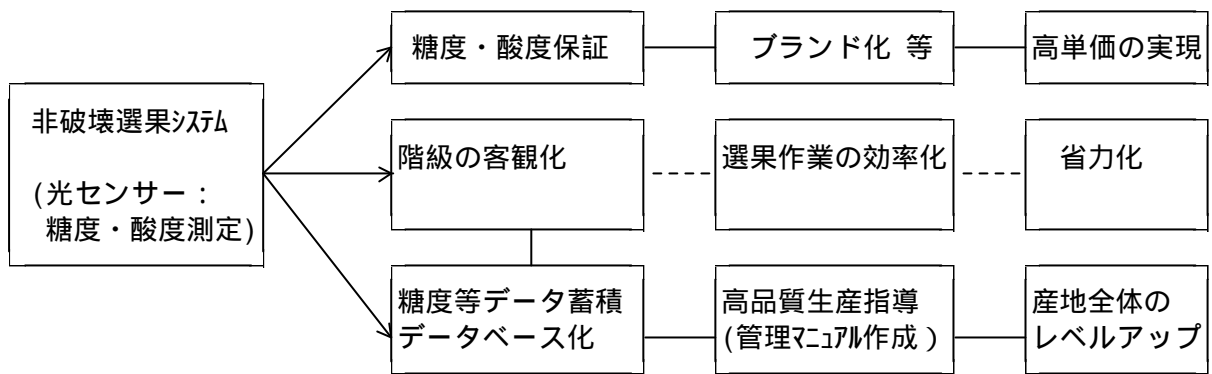


図1 光センサーによる非破壊選果システムのねらい

----- は、光センサー導入に伴う選果施設の改善（オートメーション化等）を含む

